

PKUTECHの劉甚秋社長「日本企業のDXに貢献」 - @EDGE

2023/08/29 11:00 日本経済新聞電子版 529文字

「企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）に貢献したい」。PKUTECH（PKUテック、東京・千代田）は人工知能（AI）を活用したデータ分析サービスを手掛ける。劉甚秋社長は最新テクノロジーで日本企業の変革を後押ししたい考えだ。

中国出身で1991年に北京大を卒業。96年に早稲田大大学院を修了後、野村証券に勤めた。当時のIT（情報技術）ブームにビジネスチャンスを感じ、別の起業を経て2007年にPKUテックを立ち上げた。



PKUTECHの劉甚秋社長

3カ月ごとに米シリコンバレーや米ワシントンに足を運び、最新技術を仕入れている。20年に投入したアンケートのデータ分析サービスは顧客の自由記入欄に特化した。約10万件の記入内容を数十秒で分析し、要約レポートを作成する。課題を見つけた際はAIが解決策を助言する。

成長分野として重視するのが、企業向けのシステム開発支援だ。米企業とライセンス販売の契約を結び、専門的なプログラミング技術がなくてもウェブサービスを開発できるノーコードやローコードのソフトを提供する。企業のDX基盤の構築を支える。

若手社員の教育にも力を注ぎ、国内外の研究成果や最新技術をビジネスに生かせないかを検討する勉強会を毎月開く。「良い人材を育て、5年以内の上場を目指す」

許諾番号30095097 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.